

技術本部成果発表会 開催報告

技術本部の活動をご理解いただくことを目的に、各委員会・WGが2025年度に実施した調査研究とその成果等を発表しました。

日 時 2026年5月22日（金） 14:00～17:00
会 場 豊洲ベイサイドクロスタワー（東京都江東区豊洲）
開催形式 会場及びオンラインでのハイブリット開催



挨拶に立つ竹内会長（左）と会場の様子



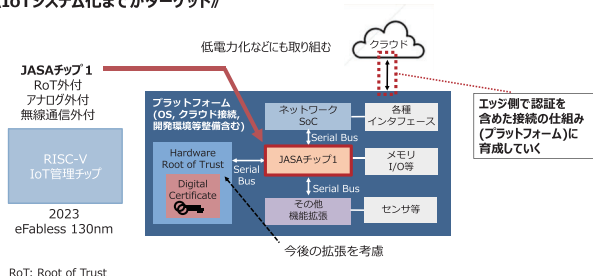
ハードウェア委員会 RISC-V WG

発表者 WG主査 小檜山 智久



3-3. 開発のスコープ

《IoTシステム化までがターゲット》



審査コメント

- 成果をWEB公開している所を評価。チップリリースから教育ドキュメント、キット、セミナーへと展開して欲しい
- 大きな目標設定を見事にクリアできていて秀逸だった。これからの期待大
- JASAチップに期待しています



コモングラウンド委員会

発表者 委員会委員長 國井 雄介



コモングラウンド委員会2025活動サマリ

活動目的

- 1 Society5.0の実現に向け、サイバー空間とフィジカル空間を融合する『デジタルツイン』を実現する必要条件と技術課題を、組込み視点で明らかにする
- 2 JASA会員企業が自社の技術検討やPoCに「持ち帰って試せる」再利用可能な「動く検証資産」として成果を整理・発信し、将来的な業界の共通基盤づくりにつながる知見を蓄積する

活動成果

- デジタルツイン関連技術の調査研究
委員会での自然教室を実施
- 外部発信
展示会出展・セミナー登壇・専門誌連載で技術知見を共有
- 技術デモ
OSSを活用した動く検証環境を構築し公開（各WG）
- 人材・ネットワーク
若手育成と、業界団体・企業・大学との連携を創出

審査コメント

- セミナーが充実していることを評価。外部との連携やネットワーク拡大に期待
- 昨年のフィジカルAI開発でCPS等が数多く活用されており、そこの接点が増えたと良い
- デジタルツインの技術ロードマップ 課題を深掘したい

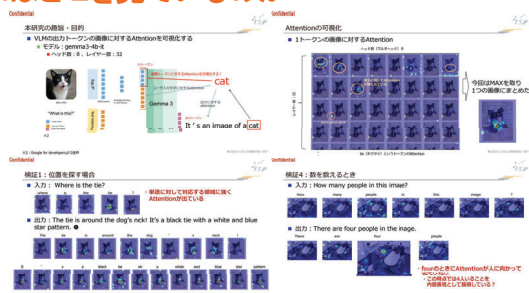


応用技術調査委員会 AI研究WG

発表者 WG主査 中村 仁昭



VLMはどこを見ているのか



審査コメント

- たいへん有益な調査結果であると思います
- 組込みならではの個別の研究が興味深い。研究成果の紹介の仕方に工夫が必要。有識者による評価が欲しい
- 様々な技術課題への取組みは評価できるが、考察をもっと深めるとさらに良いかと思う
- おもしろい。個社では困難な取組み。進化の早い技術トレンドの継続調査は重要

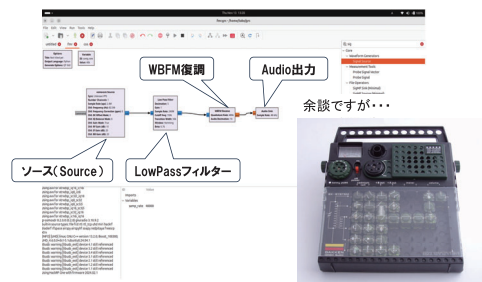
ハードウェア委員会 デバイスWG

発表者 WG主査 勝見 哲也



3-3. GNU Radio Companion事例紹介

FM受信の構築事例紹介



審査コメント

- 高周波アナログにチャレンジしているのは興味深い。
評価環境づくりや教材づくりまでたどりつけると良いと思う
- SDRというものの実践検証として非常に面白い内容
- Software-Definedのテーマが面白い。未来を感じる

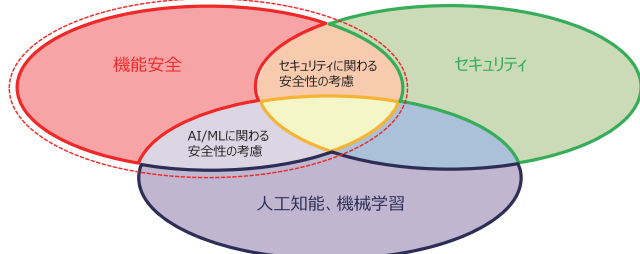
安全性向上委員会

1. 活動概要 ～JASA 安全性向上委員会のアプローチ～

発表者 WG主査 小澤 健一



【Policy】：複雑システムの機能安全の課題や国際規格に関する調査・研究をし、成果を積極的に情報発信していく



● 審査コメント

- 将来にわたって、優先度の高い活動だと思います。
開発現場への普及・啓蒙の取組みに期待
- STAMPを実践する際のAI活用まで踏み込んで貰いたい。
ISO8800の話をもっと聞きたかった
- STAMPの強み・技術ロードマップが知りたかった
- 今年度もセミナーの開催を期待しています

応用技術調査委員会 OSS活用WG

成果発表(CycleEdge)

自転車向け運転監視端末 ★

デバイスの全体像

【日常走行における疑問】

- ・自分はどんな走りをしているのか？
- ・疲れやすい場面はどこか？
- ・無理のない走行リズムは？

9軸センサ・GPS・心拍センサを搭載し、自分の運動や身体の状態をセンサで見える化するデバイスです。

全国の目的: 自転車走行をデータ化する

デバイス構成イメージ

本体は自転車のハンドル中心部に取付け、

電源はモバイルバッテリーを利用することで、取り外して充電のしやすさの両立を考えました。



発表者 WG委員 米田 幸生

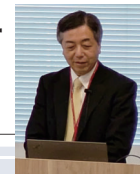


● 審査コメント

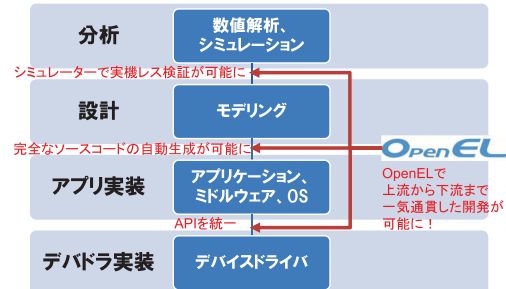
- ハンズオン/オンライン教育のガイドラインやドキュメントがあると活動を広げやすいのでは？
- 実際のもの作りまで実施出来た点は評価するが肝心のOSSに関する言及が少なかった
- 新人教育には有効、社外活動・チーム育成は魅力的
- アイデアを実践するために楽しむのは良いですね

プラットフォーム構築委員会 OpenEL活用WG

発表者 WG主査 **中村 壽一**



OpenEL[®]で何がどうなるのか？



● 審査コメント

- 研究成果が興味深い。将来への広がりを感じる。
ツール化やドキュメント化して誰でも使いやすい環境があると良い
- AI活用の実績として有意義。スキーマやデジタルツインスキーマの説明があるともっと良い
- 概念モデルの必要性をより深く説明が欲しい